報徳@なう
発行人：本岡俊郎

報徳食品支援センターの　現状と進むべく道

理事長　本岡俊郎

私達の活動は 2020 年 2 月に開始してから四年目に入っています。これまでの三年間は、コロナがまん延する中で急成長を遂げました。コロナ禍によって仕事を失い、あるいは収入が大きく減って生活が一気に苦しくなった人達への支援に奔走する毎日でしたがそのために配る食品も様々な企業から提供があり、さらには助成金で配布する食品を買う事ができるという、これまでのフードバンク活動の常識では考えられなかった事もおこりました。そして活動を支える資金も様々な助成金が出るようになり、それら等は比較的簡単に受領する事が出来ました。今から思えばコロナ禍に起因するバブル現象でした。

たとえば活動を開始したばかりの無名のフードバンクに、中央共同募金会から多額の助成金が出たのです。これまでの認識では、中央共同募金会はとても厳しく、ある意味では保守的でそう簡単には助成を受ける事はできないと思っていました。

そのように複数の助成金を受けて活動が拡げることができましたが、逆に助成金に頼る運営になってしまい、経営基盤は脆弱なままでした。ほとんどの助成金は、申請する特定の事業目的に使うためのお金ですから、事務所の運営を支える費用は対象外となり使えません。そういう矛盾を抱えながら時間は過ぎて行きました。



2022 年の後半にはコロナ感染の勢いは次第に弱まり、入れ替わるようにウクライナでの戦争をきっかけとした食品をはじめとする物価の上昇が始まりました。この物価上昇は真綿で首を絞めるように、徐々に食費の比重が高い低所得者層の生活を圧迫し始めました。実感として生活が苦しくなり助けを求める人達が増え始めたのは今年の春頃からです。津波のように押し寄せたコロナ禍のような災害ではないですが、影響を受けている人達の数はコロナ禍に較べてはるかに多いと感じています。

この 4 月から 2023 年度に入り、私達は財政難という深刻な問題に直面しました。コロナ禍が収まるにつれて、新たに公募される助成金が大幅に減ってしまいました。しかも応募の条件が厳しくなり、食品の配布だけでなく、地元の社会福祉協議会などと連携して、食品だけでなく困窮者の生活を幅広く支援する仕組みを作るような事業の申請でなければなりません。食べ物を集めて、配る事しか能のない我々フードバンクにすれば、難しくて無理な条件です。また、民間のフードバンクが音頭を取って社会福祉協議会など行政サイドを動かすなんて、とてもできません。

それでも、全国のフードバンクから助成金の応募が殺到していて、審査結果の発表が一ヶ月以上遅くなるケースも複数出てきています。



コロナ禍が襲ってくる前 2019 年頃の日本のフードバンクの活動規模は、年間 6000 トンくらいだと推定されていました。はっきりした統計はないのですが、農水省などで試算した数字です。それが、2022 年の推計では 1 万トンを超えました。それだけ、全国のフードバンクの活動が盛んになり、おそらく我々と同じように助成金頼みの運営をしていたと思います。結果として現在は、運営基盤が安定している一部のフードバンクを除いて、運営資金の調達に苦しんでいるのでしょう。私は、この難局を乗り越えるために次のように考えています。内容は、既にご案内している来年度予算と変わりないですが、まず、組織としての運営が続けられるよう事務所費用は確保します。

昨年度は、会費と寄附で 178 万円集まり、会

費、寄附金の大切さをつくづく実感しています。その他は、減ったとはいえ確実に得られる助成金を 200 万円以上得られるようにします。既に、小田原市からフードバンク活動補助金と市民活動応援補助金をいただいています。

その他に、新たな安定した収入を得られる計画を進めています。これまでのフードバンク活動を通じて得られた他のフードバンクの方達との人間関係を生かした共同事業です。多少の負荷がかかりますが、今までの経験を活かしたいと思います。

四年前活動を始めた時は、地味ではあっても安定した運営をしたいと考えていましたが、コロナ禍で翻弄されました。しかし、この三年間で地元の市民や行政／社会福祉協議会など福祉団体からの理解をしだいに得る事ができて、「食」の安全網（セーフティネット）としての機能が評価されるようになりました。物価上昇の勢いは弱まる可能性はありません。後期高齢者が人口の二割以上を占めるのは目前です。食の安全網をより充実させて機能するように努力を積み重ねて、住みよい街づくりに貢献したいと思っています。



年会費の納入がお済でない方

早期の納入をお願い致します。

猛暑乗り切り大作戦



物価高＋猛暑により家計を圧迫している日々かと

思われます、この夏を乗り切るために

報徳食品支援センターは、皆さんの力になりたいです。

＊夏休みで給食が無く食費負担が大きくなっている子育て世帯

＊光熱費高騰で食費の削減を余儀なくしている家庭

いろいろな事情で食事に困っている方を応援します。



一度ご相談ください！

小田原市西大友 136-1（国道255号　おだわら新鮮館となり）

070-1432-9559 ・ 090-3107-6477

houtoku.foodbank@gmail.com

お名前、ご住所、電話番号、年齢、家族構成は

必ずお知らせください。

